

平成 22 年 5 月 20 日現在

研究種目：基盤研究 (B)  
 研究期間：2007 ～ 2010  
 課題番号：19330190  
 研究課題名 (和文) 学士課程教育のアウトカム評価とジェネリックスキルの育成に関する国際比較研究  
 研究課題名 (英文) An international comparative research on outcome evaluation at undergraduate education and training generic skills  
 研究代表者  
 濱名篤 (HAMANA ATSUSHI)  
 関西国際大学・教育学部・教授  
 研究者番号：90198812

研究成果の概要 (和文)：ジェネリックスキルの育成については、教育目標を明確にし、そのために体系的に構造化された教育内容の整備をし、教室内では参画型・双方向型のアクティブラーニング、教室外では体験型学習を取り入れた、学習重視の教育方法を組織的に導入していくことが効果的である。学生自身、教員、友人の三者のジェネリックスキルについての評価の結果を比較すると、友人評価以上に教員評価の方が学生の自己評価との一致度は高く、専門知識、情報収集・活用、批判的思考、論理的思考、分析的思考等については評価が一致し、主にゼミ、演習等の教育活動の中で確認されている。

研究成果の概要 (英文)： To develop generic skills effectively, we found it is essential to set educational/learning goals clearly, to implement learning-centered curriculum systematically, and to introduce active learning methods both inside and outside of the classroom which emphasize students' participation and hand-on experiences. When we compared the results of self-assessment, peer assessment and instructor's assessment, self-assessment and instructor's assessment was highly correlated. The correlations of knowledge in major, information collection and its utilization, critical thinking, logical thinking, and analytical thinking are very significant. Students and instructors are making judgment in their seminar.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	4,800,000	1,440,000	6,240,000
2008 年度	5,400,000	1,620,000	7,020,000
2009 年度	4,900,000	1,470,000	6,370,000
年度			
年度			
総計	15,100,000	4,530,000	19,630,000

研究分野：教育学

科研費の分科・細目：教育社会学

キーワード：教育社会学

## 1. 研究開始当初の背景

本研究には大きく 2 つの背景が存在する。

(1) 大学教育・学士課程教育の質保証、評価の方法について国際的に高い関心が集まっ

ていることである。大学教育修了者が労働市場において大卒者にふさわしい能力を持った労働力として評価される水準にあるかという問題である。評価の視点のひとつとして、ジェネリックスキルに着目した学士課程教育のアウトカム評価が議論されている。

(2) 日本において、高等教育のユニバーサル化に伴い新たな学士課程教育プログラムの再構築に対する社会的関心が高まっていることである。多様化した学生に対し、初年次教育やキャリア教育といったこれまでの大学教育にはみられなかった新しい教育プログラムが提供されるなかで、これらをいかに学士課程教育の中に、組織的に統合していくかという課題である。

## 2. 研究の目的

本研究は、上述のような世界の状況を、各国の高等教育の特性を考慮しながら整理しつつ、今後、ユニバーサル化が一層進行する日本の高等教育において学士課程教育の使命・機能・効果に対して実証的な評価枠組みの構築を可能とするような、基礎研究を実現しようとするものである。具体的な目的は次の通りである。

(1) ジェネリックスキルの含意するものを明らかにし、労働市場での評価尺度としての有効性について検討を行う。

(2) ジェネリックスキルの育成について効果的であると考えられている教育内容・方法の実践事例を収集・分析する。

(3) 日本の高等教育の特性を勘案した上で、ジェネリックスキルの修得に有効だとされる教育内容と方法と、学習成果を評価する方法についても具体的提案を行う。

## 3. 研究の方法

(1) 諸外国の取組みを参考にすることを目的として国際比較を行うための海外訪問調査を行う。

(2) 日本国内での応用可能性を検証するための前提として、日本の大学の取組み・学生の実態把握を行うための訪問調査を行う。

(3) 大学入学者がどのようにジェネリックスキルを獲得していくのかを明らかにすることを目的とした学生を対象とする質問紙調査を行う。

(4) 労働市場による大学卒業生の評価を検証

するために、これまでに経済団体等によりなされてきた大学教育論、産業界が必要とされるとしてきた人材論を分析する。そのために経済団体関係者へのインタビュー調査を行う。

## 4. 研究成果

本研究では、大学卒業者が卒業時点において社会で共通して求められる能力・態度・価値観等々の習得を目指す概念であり、高等教育の成果指標として有効性が論じられているジェネリックスキルの育成に注目し、その修得についてメカニズムと具体的な育成方法を明らかにすべく、文献調査、海外訪問調査を中心に初年度の研究を進めた。

初年度の研究成果としては、第一に、ジェネリックスキルの含意するものについて、労働市場での評価尺度としての有効性について検討をした結果、企業のコンピテンシー評価は、必ずしも一般性を有するものとは限らず、当該企業で高評価の社員の特性を分析した事例が多く、一般的に構造化して把握し、育成していくという性格は持ちにくいことが明らかになってきた。第二に、ジェネリックスキルの育成について効果的であると考えられている教育内容・方法の実践事例の収集・分析については、米国及び豪州の大学訪問調査を行い、教育内容だけでなく教育方法や評価方法と連動した教育プログラムを組織的に開発している事例について情報収集を行った。

2年目は、海外訪問調査、国内大学訪問調査、国内の大学を対象とした質問紙調査を中心に研究を進めた。その研究成果として、第1に、海外訪問調査については、米国の大学訪問調査を行い、教育内容だけでなく教育方法や評価方法と連動した教育プログラムを組織的に開発している事例について情報収集を行い、サービスマーケティング、ラーニングコミュニティ、スタディ・アブロード等の学外教育プログラムの活用や、教室内においてもグループワーク手法を取り入れたアクティブラーニングやラーニングコミュニティといわれる教育方法が有効であることなどを確認した。第2に、国内大学訪問調査では、ジェネリックスキル育成に係る効果的な教育内容・方法の具体的な取り組みに関する情報収集を行った。第3に、質問紙調査については、予備調査として、学生本人、友人、教員の三者が当該学生をどのように評価しているのかに関して調査を実施し、ジェネリックスキルの測定方法の可能性を探った。

3年目には、大学生および教員を対象とした質問紙調査を実施した。内容はジェネリックスキルの測定方法について、学生の自己評価と、教員及び友人による他者評価の異同を

測定し、ジェネリックスキルの測定の可能性を実証的に明らかにしようとした。その結果、ジェネリックスキルの測定については、自己評価と教員評価の一致率は38%と一定の相関が確認できた。ゼミや授業で確認しやすい行動レベルで可視化できる項目については、学生の自己評価の信頼性を確認できた。これに比べ、友人評価との相関は高くなく、総じて評価が甘くなる傾向が見られた。

また、米国でジェネリックスキルおよび教育プログラムの開発に携わっている研究者を招聘して、学士課程教育のアウトカム評価とジェネリックスキルの育成の先駆的方法について聞き取りを行い、定性的な能力・スキルの測定について、ルーブリックを設計・活用することによって学習成果を定量化して測定する方法について一定の成果を得た。

3年間を通しての知見を整理すると以下のようにまとめられる。

ジェネリックスキルの育成については、教育目標を明確にし、そのために体系的に構造化された教育内容の整備をしていくことに加え、教室内では参画型・双方向型のアクティブラーニングを取り入れた、教室外では体験型学習を取り入れた、学習重視の教育方法を組織的に導入していくことと、それらの教育目標に見合った学習成果の測定・評価を導入することが効果的であることが明らかになった。

この分野で先行する米国と比べて、日本の大学の取り組みは全体としては遅れを見せている。現状としては、PBLやキャリア教育などの形で組織的導入を図る日本の大学は増加してきている。サービ斯拉ーニング、ラーニングコミュニティ、スタディ・アブロード等の学外教育プログラムの活用も増加してきている。これらの能動的学習という教育方法を教育課程の中に取り入れていくことの重要性和有効性については、日本の大学にも認識されてきている。

しかし、どのようにしてジェネリックスキルを身につけたかという測定評価については、まだまだ課題が多い。米国における、学習目標について独自のテスト開発を行ったり、定性的な経験値からルーブリックを作成し、教員と学生の双方が評価の観点を明確化し共有したりといった可視化への取り組みは、日本ではまだ例外的にしか見あたらない。現状とすれば、学生自身の自己評価や学生生活における学習経験の有無等について質問紙調査によって収集したデータを用いて分析し始めた段階であり、学習成果そのものの検証は十分ではないし、学士課程全体の学習成果の測定・評価の方法については模索が続いている状況にある。

米国での学習成果の測定については、2006年にスペリング報告以降、学習成果の測定に

ついでに研究成果が色々と報告され、①「労働力としてのレディネスと一般教育スキル (Workforce Readiness/General Education Skills)」、②「専門知識 (Domain Specific Knowledge)」、③「ソフトスキル (Soft Skills)」、④「学生参加 (経験) (Student Engagement)」の4領域での測定方法が整理されるようになった。それらの中には、標準化された外部テスト利用も含まれている。エビデンス・ベースの学習成果に対する要請が強まっている状況では当然の動きともいえる。ジェネリックスキルを測定評価しようとする外部テストとしては米国のCLAや豪州のGSAが代表的なものである。内容的には批判的思考力、問題解決力、筆記コミュニケーション等であり、比較可能性や可視性が評価される反面、限定的・部分的な側面や安易なランキングの材料とされやすい等の問題点も指摘される。

米国や豪州でも、学習成果の測定・評価の方向性は一方向に標準化するというものではなく、各大学が自らの使命や教育目標に基づき、学生のポートフォリオ等も含めすでに保持している学習成果の測定・評価法を活用することや、様々な測定・評価方法を組み合わせることで自律的に行っていくという方向に向いている。

日本における学習成果の測定については、専門基礎知識については、医学系や心理学系において標準化をめざしたテストを作成する分野もみられるが、ジェネリックスキルの測定・評価については、外部テストは開発されてはいない。現状とすれば、PBL型の教育プログラムにおいて試みられているが、学生の記録に基づく自己評価に、評価者による面接を併用する方法が主である。

日本ではこれまでジェネリックスキルの測定・評価は主に学生の自己評価を中心に、それに外部評価者の面接・観察等に組み合わせられてきている。本研究では、この方法をさらに改善するためには、測定・評価の方法を簡便に改善する必要がある。そこで、学生、友人、教員の三者に対し、「学士力」を標準にした項目について、評価をしてもらい、その一致度を調査した。その上で、評価の際にどのような場面を想像したのかを質問し、ジェネリックスキルの各項目の育成にとって、どのような経験や教育が有効であるのかを分析を試みた。

三者の評価の結果を比較すると、友人評価よりも教員評価の方が学生の自己評価との一致度は高く、専門知識、意見の伝達、質疑応答、情報収集・活用、批判的思考、論理的思考、分析的思考については評価が一致し、主にゼミ、演習等の教育活動の中での確認している点でも一致した。他方、問題解決、自己理解、企画立案実行、市民性、自律的学習、

創造的思考等は、授業場面では表出しにくく、こうした内面化された内容については評価結果・場面共一致しなかった。これらの内容については、測定方法を検討し、ルーブリック等の評価の観点・基準を改善したり、ポートフォリオなどから評価したりしていく必要がある。

教育内容と教育方法が、測定評価のメカニズムと連動し、適切な測定・評価をすることは、ジェネリックスキルの育成にとって重要な課題となっているが、メカニズムの解明はまだ十分にはできていない領域が残る。この点については、継続的な実証研究が必要である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 12 件)

- ① 濱名篤、日本の学士課程教育における初年次教育の位置づけと効果～初年次教育・導入教育・リメディアル教育・キャリア教育～、大学教育学会誌、査読有、29 巻 1 号、2007、36-41
- ② 川嶋太津夫、「学士力」概念と初年次教育への含意、初年次教育学会誌、査読無、1 巻 1 号、2008、33-40
- ③ 川嶋太津夫、Outcomes-Based Approach in Japanese Higher Education: Emerging Concerns and Challenges、大学教育研究、査読無、17 号、2008、31-42
- ④ 川嶋太津夫、ラーニング・アウトカムズを重視した大学教育改革の国際動向と我が国への示唆、名古屋高等教育研究、査読無、8 号、2008、173-191
- ⑤ 杉本和弘、オーストラリア大学教育の質保証－Graduate Attributesの設定と教育改善－、大学教育研究、査読無、2008、69-79
- ⑥ 杉本和弘、国際的な「質」を追求する留学大国オーストラリア、週刊東洋経済、査読無、2008 年 10 月 18 日号、2008、96-98
- ⑦ 杉本和弘、オーストラリア高等教育におけるラーニングアウトカム重視の質保証、比較教育学研究、査読無、38 号、2009、132-144
- ⑧ 川嶋太津夫、アウトカム重視の高等教育改革の国際的動向－「学士力」提案の意義と背景－、比較教育学研究、査読無、38 号、2009、114-131
- ⑨ 川嶋太津夫、大学と社会：教育における産学連携の可能性、季刊 政策・経営研究、査読無、Vol.2、2009、89-97
- ⑩ 濱名篤、中教審答申の中での「教養」、世界思想、査読無、36 号、2009、31-34
- ⑪ 濱名篤、学士力を培うための学士課程教育、大学評価研究(大学基準協会)、査読無、8

号、2009、31-42

- ⑫ 吉田武大、アメリカ高等教育におけるラーニングアウトカム評価の現状と課題－アクレディテーション団体 CCSACS の「Quality Enhancement Plan」を中心に－、関西国際大学紀要、査読無、11 号、2010、63-64

[学会発表] (計 5 件)

- ① 濱名篤、小島佐恵子、川嶋太津夫、藤木清、白川優治、大学入学時の基礎学力と入学後の適応・成績、日本教育社会学会 59 回大会、2007 年 9 月、茨城大学
- ② 吉原恵子、杉本和弘、末富芳、アウトカム評価におけるジェネリックスキルの位置づけ、日本教育社会学会 60 回大会、2008 年 9 月、上越教育大学
- ③ 杉本和弘、オーストラリア高等教育におけるアウトカム重視の質保証、日本比較教育学会第 44 回大会公開シンポジウム、2008 年 6 月、上越教育大学
- ④ 杉谷祐美子、香川順子、白川優治、ジェネリックスキルの習得とその評価手法の探索的研究－自己評価・他者評価の可能性－、2009 年 5 月、日本高等教育学会 12 回大会、長崎大学
- ⑤ 濱名篤、吉原恵子、ジェネリックスキル評価調査から見る学士課程教育の位相－学生はどこで何を身につけているか－、日本教育社会学会 61 回大会、2009 年 9 月、早稲田大学

[図書] (計 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況 (計◇件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

[その他]

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

濱名 篤 (HAMANA ATSUSHI)  
関西国際大学・教育学部・教授  
研究者番号：90198812

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

### (3) 連携研究者

濱名 陽子 (HAMANA YOKO)  
関西国際大学・教育学部・教授  
研究者番号：60164919  
川嶋 太津夫 (KAWASHIMA TATSUO)  
神戸大学・大学教育推進機構・教授  
研究者番号：20177679  
川島 啓二 (KAWASHIMA KEIJI)  
国立教育政策研究所・総括研究官  
研究者番号：50224770  
吉田 文 (YOSHIDA AYA)  
早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授  
研究者番号：10221475  
吉原 恵子 (YOSHIHARA KEIKO)  
兵庫大学・生涯福祉学部・教授  
研究者番号：80341030  
佐藤 広志 (SATO HIROSHI)  
関西国際大学・人間科学部・教授  
研究者番号：50252125  
杉本 和弘 (SUGIMOTO KAZUHIRO)  
鹿児島大学・教育センター・准教授  
研究者番号：30397921  
藤木 清 (FUJIKI KIYOSHI)  
関西国際大学・人間科学部・教授  
研究者番号：60300365  
杉谷祐美子 (SUGITANI YUMIKO)  
青山学院大学・教育人間科学部・准教授  
研究者番号：70308154  
末富芳 (SUETOMI KAORI)  
福岡教育大学・教育学部・准教授  
研究者番号：40363296  
香川順子 (KAGAWA JYUNKO)  
徳島大学・大学開放実践センター・准教授  
研究者番号：40467832  
白川優治 (SHIRAKAWA YUJI)  
千葉大学・普遍教育センター・助教  
研究者番号：50434254  
小島佐恵子 (KOJIMA SAEKO)  
北里大学・一般教育部・講師  
研究者番号：40434196  
吉田武大 (YOSHIDA TAKEHIRO)  
関西国際大学・教育学部・講師